

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201916		
法人名	社会福祉法人 弘友会		
事業所名	グループホーム サン・フラワー		
所在地	〒036-8066 青森県弘前市大字向外瀬字豊田320番1		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりの個性を把握し、信頼関係を築き、理念に基づいた「達者でまみしくあずましく」過ごせるよう、思いやりを持ったケアを心掛けています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>6人の定員ということもありアットホームな雰囲気があり、利用者の方々も自分のペースで趣味を楽しんだり、ホールで思い思いに過ごされている。職員も利用者のペースに合わせてレクリエーションを行ったりしてゆったりとした時間を過ごせるように支援されている。また、天気の良い日は山を見渡せる廊下の端まで行って手を合わせたり、グループホーム前の広場に出たりして気分転換を図ったりする機会を作っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	達者でまめしくあずましくを理念に掲げ、会議や申し送りに唱和を行い、全員が理解した上で日々のケアに取り組んでいる。	地域の中で信頼されふれあいのできるホームを目指す地域密着の理念と、利用者に対しての直接的な2つの理念を掲げ、会議や毎日の申し送りの席で復唱し、ケアに活かす取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動に参加したり、近隣施設の行事等に参加し交流を持っている。	地域の小学校で開催するバザーや町内会主催の河川敷清掃に参加して交流されている。又、地域内の数か所の事業所とは、敬老会などにお互いに行き来して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方の理解について話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、警察、消防団、他施設職員等会議に出席しており、意見交換や情報提供を受けている。会議録に記載し職員間で共有し支援に活かしている。	地域の関係者や行政関係者、家族代表など出席されて日々の生活状況や活動内容の報告をし、意見交換している。又、地域内のグループホームからの参加もあり、お互いに情報交換をして利用者の生活の質の向上への支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の他、日頃より相談や確認事項があつた際は、連絡し関係者よりアドバイスや情報等を頂いている。	業務に必要な事や介護保険制度における不明点などあつた際には、気軽に相談ができる関係になっておりアドバイスをいただいたりして協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会や身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催している。また、マニュアルも作成して、情報共有に努めている。	マニュアルを詰所に掲げ、具体的な行為など日々の業務の中で確認し合っている。又、法人の委員会主催の研修会で取り上げたり、外部研修に参加した職員からの伝達研修が行われて理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待についての研修会に参加後、知識習得のため高齢者虐待法に関する勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者がいる為、成年後見人制度について確認したり、指導してもらう等知識の習得に努めている。また、勉強会を開催したりと学ぶ機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、理解、納得しているか確認しながら丁寧に説明している。重度化した場合や料金について、リスクについても対応方針を説明している。加算部分での同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口にご意見ボックスを設置いつでも投函出来るように準備している。運営推進会議には、家族の方も参加して頂き、地域の方と意見交換出来る機会を設けている。	面会時に直接話を聞いたり、毎月の請求書と一緒に手紙を書いて、「一言どうぞ」の欄も設けたりして意見を引き出す機会を作っている。	利用者・家族からの意見や要望を引き出すために、独自にアンケートなどを実施したりするなど、より一層の機会を作っていくことに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、月1回の会議の他に管理者と個別に面談する機会が設けられ、運営や業務の改善につながるよう意見交換している。	3か月に一度の割合で管理者と面談する機会を作っており、自分で掲げた目標の達成度を確認したり、運営に関する意見を聞いたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度人事考課をして施設長と面談し業務内容や目標等を報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に見合った研修を管理者が振り分け学ぶ機会をもうけている。また、個人面談し業務内容や目標等の報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの行事に招待しあったり、意見交換や情報交換等をしサービスの質の向上に努めている。また、運営推進会議にも参加し合い情報を交換している。併設施設内の他部署との交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用にあたっては、相談、苦情、要望があった際は、本人が受け入れてもらえるような関係作りに努力し、本人の思いに耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際、家族から不安になる事や生活歴、思い等を話してもらい、入所前に理解を深められるように努めており、話しやすい雰囲気作りを工夫している。事業所の対応についても説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、水分補給は皆で会話しながら、ホールで一緒に喫食している。また、余暇活動時も一緒に過ごし、歌を歌ったり世間話したりと家で生活しているように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手書きで家族にお便りを発送し、本人の状況を報告している。また、家族交流会を実施し本人含め家族や職員と会食しながら交流を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みある場所へドライブに出かけたり、買物に出かけたりしている。また、家族に年賀状も毎年送っている。	入居前によく行っていた地元のスーパーや住まいの近くまでドライブするなどの支援や、家族に手紙・はがき(年賀状含)・電話を利用して継続的な交流を図る支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えを実施し、気の合った利用者同士快適に過ごせるよう環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の利用者に面会に行く機会を設け、家族との関係、経過を把握している。入院時も面会に行き、家族の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者からの情報を得るようにしている。また、日常の利用者との会話やしぐさから思いを把握するよう努めている。	家族からの聞き取りや日頃の生活状況から本人の意向を把握している。アセスメントは個別に入居前・後の変更の情報も取り入れ、ファイルにまとめられている。	センター方式等の活用を検討しながら、本人の生活歴やどのように暮らしたいのか、何をしたいのか等、更に生活に密接な意向を把握し、その人らしい生活の実現となるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境を変えずに生活が継続出来るように、本人や家族より情報を得て、本人らしい暮らしが出来るよう支援している。既往歴を参考にし生活の仕方を考慮したプランを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックを行い、心身の状態を見極めている。また、個別ケアを重視し、有意義な1日が過ごせるよう支援している。午前と午後の様子について記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行っている。また、面会時に家族からの要望や職員の意見を取り入れ計画作成に努めている。また、カンファレンス、申し送り時、会議時に利用者の状態を確認し意見交換してプランに反映させている。	日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。各担当者が月1回モニタリングを行い、検討会議やカンファレンスにて意見交換し、その人らしく暮らし続けるための支援を盛り込んだ計画へとつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースや申し送り帳を活用し、日々の様子を記入し、職員全員共有するようにしている。また、介護記録の書き方について、定期的に勉強会を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望に添えるよう、家族と相談し状況に応じた支援が出来るように努めている。通院送迎の支援、併設施設との交流等サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、町会長、民生委員、警察、社会福祉協議会、包括支援センターが参加し、地域の情報や支援に関する意見交換も活発に行っている。地域活動にも参加するよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医の継続の確認をし、家族や本人の希望を重視している。希望のかかりつけ医の受診に対しても対応しており、結果等は家族にも連絡し報告している。	受診は本人家族の希望を大切に、入居前のかかりつけ医の受診を継続している。入居後に変更となった利用者も、家族が通院対応の場合、グループホームで対応した場合に限らず、医療情報は共有されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結び、24時間連絡可能な体制をとっており、週1回の来設時に利用者の状態報告、相談助言対応可能な体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、家族、病院と情報交換を行い、早期退院に向け支援を行っている。また、面会に行き状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが、重度化した場合は、家族や本人と話し合いの場をもうけ、各自の意向を確認している。また、前向きな話し合いが出来るように、可能か不可能な所を話し合っている。	重度化した場合の対応に係る指針を掲げ、具体的な状態として寝たきりや医療の必要度合いなどから、他事業所への紹介等、入居時契約の際に家族に提示し、同意書を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急、避難訓練を定期的実施している。また、救急法の研修も行って積極的に参加し、すぐ対応出来るような体制を整えている。マニュアルも作成しており、勉強会時に再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設と合同避難訓練を実施している。近隣施設との合同避難訓練も実施しており水害時の訓練も行っている。非常食や備品も備蓄している。	同地区内に隣接された事業所と合同で、地区の消防隊の協力のもと、川の反乱の被害状況に合わせた避難訓練を行っている。実際に2階以上の位置となる屋上への避難を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定しやすい言葉がけや、本人の人格を傷つけないような声掛けで行うよう心掛けている。また、個人情報の守秘義務について理解し責任ある取り扱いをしている。	耳の遠い利用者には大きめの声で話す、排泄のことや話す内容によっては個室で話したりして、プライバシーを確保している。日頃使う言葉についても、毎月行う会議の後の勉強会として取り上げ、日々の業務を振り返り、取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重し、思いや希望を言えるような雰囲気作りに気をつけている。相手が理解しやすい言葉掛けを意識して日頃より会話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課参加全てにおいて、本人に参加の有無を確認し実施。また、余暇の過ごし方にて、本人のやりたいことを優先し、それに見合った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べない方に対しては、毎日の整容、身だしなみは必ず確認している。また、イベント時や外出時等、化粧をしたり好きな服を着たりと手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態に合った食事形態の工夫をしている。また、行事として手作りクッキングをもうけ一緒に食事もあることがある。利用者の体調に合わせてメニューを考えたり提供内容を変えたりと工夫している。	食事前に口腔体操を実施する日を設けたり、盛り付けた器を利用者に配膳してもらうことで、食事が楽しみになるように工夫している。職員も一緒に食事することで、楽しい雰囲気づくりがみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては管理しており、本人の嗜好に応じ、ジュースやアイス、コーヒー等準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	マウスウォッシュや舌みがきを使用したり、本人の口腔状態に合わせて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じ、排泄確認し一人ひとりの排泄パターンをチェック表を用いて把握している。排泄確認の時間を決めトイレ誘導している。夜もトイレ誘導しオムツは使用していない。	オムツは使用せずトイレで排泄できることを基本方針とし、一人ひとりの排泄チェック表から、トイレ誘導の間隔や失禁の時間帯を把握している。水分量1500mlを摂取し、失禁が減少する内容の研修を受け、実際に水分摂取強化によって失禁が減少した結果を得て、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために毎日の運動と水分強化、排便チェックも行い便秘早期発見に努めている。また、下剤も用いて便秘防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	同建物内の温泉を利用し、一人ひとりのペースに合わせて週3回入浴している。利用者のレベルに合わせてシャワー浴やグループホーム内の浴槽を使用し入浴を提供している。また、りんご風呂、よもぎ風呂等で楽しんで頂いている。	利用者一人ひとりの好みや能力に合わせて、同建物内の温泉や個浴で、香りの工夫もされて楽しむことのできる入浴となっている。利用者から入浴の回数や希望の時間があれば、対応する体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に1時間ほど午睡の時間をもうけている。午前、午後ともアクティビティやレク活動を行い、適度に体を動かすよう進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して全職員が把握できるよう、医療連携体制支援経過表週1回手書きで内服内容を記入し理解に努めている。表はケースに綴っておりいつでも確認できるようにしている。服薬は、本人の口に入れてあげ確実に飲めるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、やりたい事、出来る事を理解した上で、物品提供し作品を作っていたりしている。一人で困難な方は職員と一緒に楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は外出しており、季節を感じられる場所に行ったり、旬な食事を堪能する機会をもうけている。利用者からの希望がある時は、行事に取り入れ外出している。	年間計画に冬期間以外の月1回は、ドライブや外食など取り入れている。春はお花見ドライブで季節を感じていただいたり、計画以外でも天気が良ければ近所の散歩、建物の屋上でシャボン玉を楽しむなど、日常的に外出を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買物やイベント参加時には、お金を所持して頂き、使える場を提供している。また、本人の買いたいもの等の希望を聞きながら買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出す支援を行っている。また、入居者の希望によりいつでも家族に電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、温度調節に配慮し、ホールに季節感を味わえるように、手作り作品を飾り付けを工夫している。	利用者が一日のほとんどを過ごす食堂兼居間には、季節ごとの飾りつけや手作り作品が飾られていることで話題の一つにもされて楽しんでいる。居心地よく過ごせるように年間を通して温度調整には気を配り、定時でチェックしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が気楽に会話出来るように、テーブルの座席や談話する場所を工夫したりと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に馴染みの物を持ってきてもらい、居室内でも居心地よく過ごせるよう家族と話し工夫している。また、個性ある部屋作りに心掛けている。	利用者が使い慣れた椅子などの家具の持参やテレビや電化製品の希望にも応じる。元々布団で生活している利用者には、マットの厚さ調整をして布団で休んでもらう。居室の戸を開けてものれんでプライバシーの確保をして居心地よい部屋づくりの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし、自分で出来ることは促し、状況に合わせた環境整備を行い自立支援に繋げている。		